

## 大阪大学運営方針会議（令和7年度 第1回）議事要旨

日 時 令和7年4月30日（水）13時30分～15時10分

場 所 大阪大学中之島センター 8階中会議室

出席者 井野瀬委員（議長）  
熊ノ郷総長  
大石、津賀、安浦、藤尾、田中 各委員

欠席者 ビール、永井 各委員

（陪席者）尾上、井上 各理事

議事に先立ち、熊ノ郷総長から就任の挨拶と新任委員の紹介があった。  
続いて、井野瀬議長から、前回（令和7年3月5日開催）の議事要旨について、内容を確定した旨報告があった。

### 議 事

#### 1 大学の運営状況の報告について

- ・令和7年4月からの運営組織構成員等について  
熊ノ郷総長から、配付資料に基づき報告があった。

#### 2 国際卓越研究大学研究等体制強化計画の作成について

熊ノ郷総長及び尾上理事から、配付資料に基づき説明があり、審議の結果、これを議決した。

本議題に係る学外委員からの主な意見は次のとおり。

- 審査に向けて、大学へ投資してもらった分が回収できるスキームになっているか、25年間における社会やお金の流れの変化をどのように活用していくか、「なぜ競争に勝てるのか」「競争相手は誰なのか」という視点がそれぞれ必要になるのではないか。また、経営という観点からは、割り切りや何をやらないかの引き算等、シンプルさも重要である。
- 今後の少子化対策や地域の過疎化といった課題に外国語学部を持つ大阪大学としてどう向き合うか、生成AIの急速な展開にどう対応するか等、大学としての考えを整理しておく必要があるのではないか。
- 25年という期間の中で、持続的な若手研究者育成のためのシステムをどのように作っていくか、非常に重要になる。また、それぞれの分野で世界の中核となって流れを作る学会等に若手研究者が参画する機会を保障することが必要であり、その際には若手に対するメンター制度をどのように作るかが重要になる。
- J-PEAKSの大学と具体的にどのように連携するかについて、整理しておくことも必要ではないか。
- 変化していく世界の中で、「変わらないもの」という考え方も必要であり、例えば、「地域に生き世界に伸びる」の土壌の一角として、温かみや助け合い、共感というものが伝わる

記述があってもよいのではないか。たとえば、世界からひきつけたい「優秀な人材」とは何か。言葉とそれが指し示す中身にこだわりながら、「大阪大学らしさ」を表現していくことが大切ではないだろうか。

- 現時点の資料では、本当に伝えたいことや強調したいことが見えづらいため、伝えたいことがどこまでシンプルでわかりやすくなるかという視点から、全体の文書、文言や表現等を見直し、サイト・ヴィジットの委員が聞きたくなる質問を引き出すことが重要ではないか。

(以 上)